

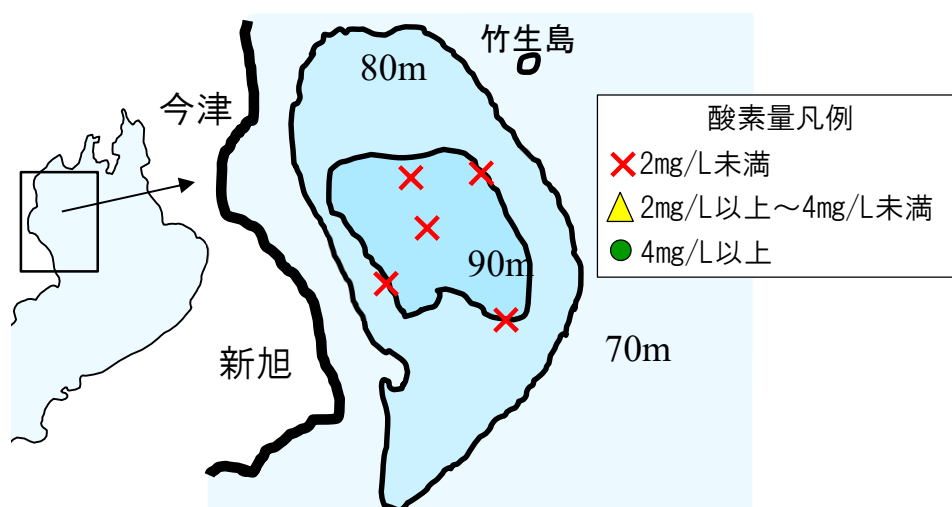
北湖沖合湖底の酸素量とスジエビ等の生息状況

2024年11月1日
滋賀県水産試験場

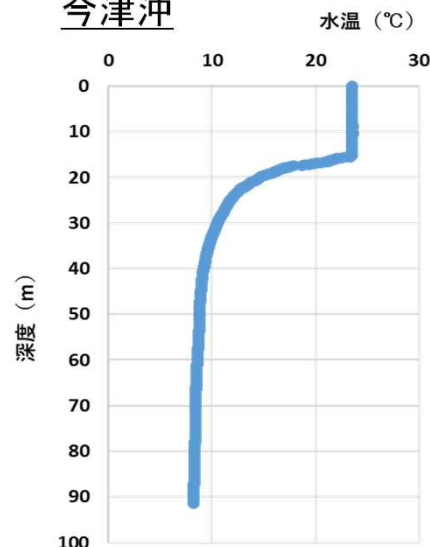
琵琶湖沖合の底層では、秋から冬にかけて酸素量が低下し、2mg/Lを下回るとスジエビなど魚介類の生存や分布に影響を与えることがあります。

そこで、水産試験場や琵琶湖環境科学研究センターが実施した酸素量やスジエビ等の生息状況に関する調査結果をお伝えしますので、操業の参考にしてください。

○湖底等の酸素量(2024年10月15日時点)

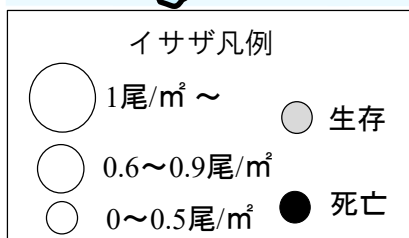
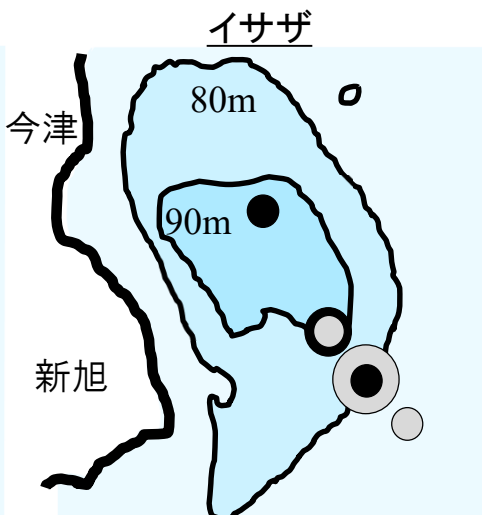
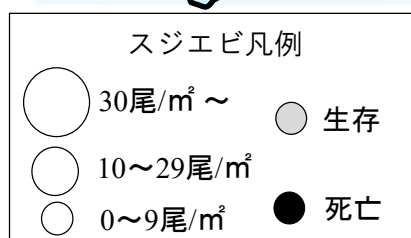
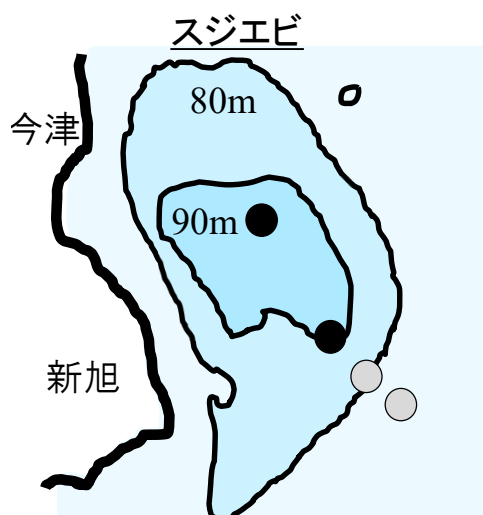


今津沖



- ・湖底直上1mの酸素量は水深90m水域で2mg/Lを下回りました。
- ・湖底水温は8.3℃でした。

○スジエビ等の生息状況(2024年10月17日時点)



- ・スジエビ
死亡個体は水深90m水域のみで確認されました。

- ・イサザ
主に水深90m水域で死亡が確認されました。水深80mで確認された死亡尾数は1尾(0.1尾/m²)でした。